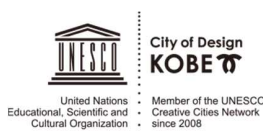


# 神戸市の取り組み事例の紹介

1. 防災部局
2. 学校施設整備
3. 防災教育

平成28年6月30日

神戸市教育委員会  
学校整備課 小林賢一



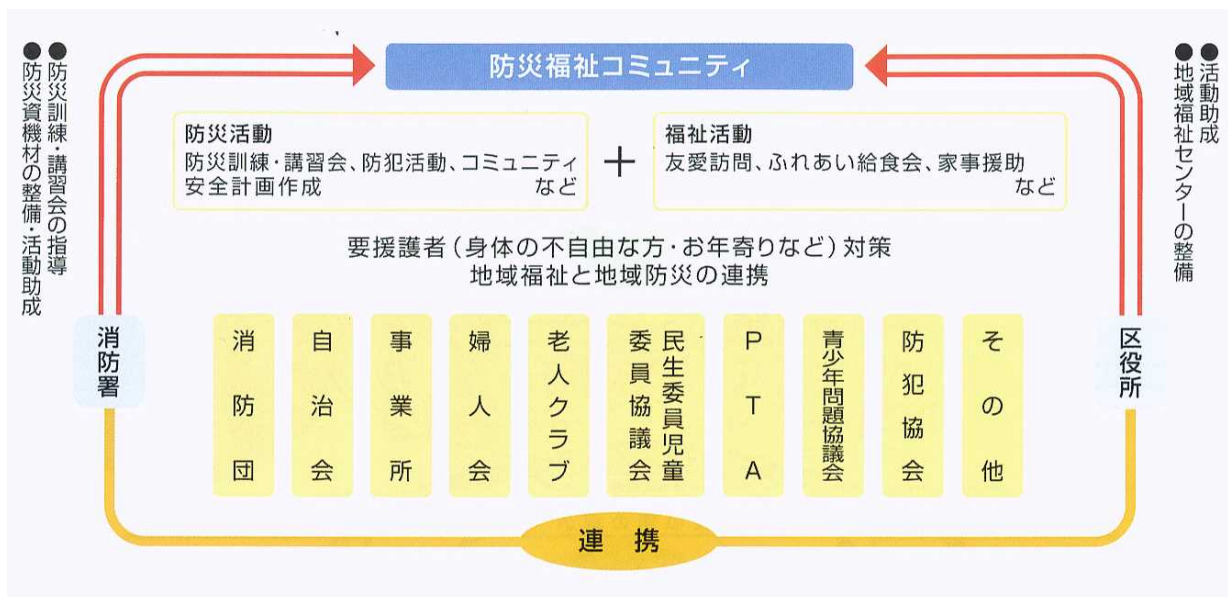
## 1 防災部局の取り組み事例

- ① 自主防災組織の結成  
防災福祉コミュニティの活動
- ② 「地域津波防災計画」の策定  
ワークショップ・まち歩き・避難マップ作成
- ③ 神戸市の備蓄体制  
災害発生後20万人分、3日分の非常用食糧の備蓄体制の整備を進めている



# 1- ① 自主防災組織の結成

## (防災福祉コミュニティ)



○概ね小学校区ごとに、  
全市191地区で結成(平成7～20年度)

## 防災福祉コミュニティの活動



# 1- ② 「地域津波防災計画」の策定

津波浸水が予想される18地区で、  
ワークショップ・まち歩き・避難マップ作成



防災福祉コミュニティによる  
津波表示板の設置



# 1- ③ 神戸市の備蓄体制



阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、被災者約20万人規模の大規模な災害を想定

- (1) 市民の備蓄
- (2) 『食糧物資調達に関する協定』を締結している農協、スーパー、百貨店等の指定業者による「流通備蓄」
- (3) 他の地方公共団体からの応援
- (4) 防災拠点での備蓄



災害発生後20万人分、3日分の非常用食糧・物資の備蓄体制を整えている。

- 防災拠点での備蓄（H28.4.1現在）  
災害発生後1日目の10万人分と2日目の5万人分、合計15万人分を確保
  - ①小中学校など避難所の「地域備蓄拠点」各200~400人分（全体で約78,700人分）の食糧・物資を備蓄
  - ②大規模施設の「総合備蓄拠点」13か所  
被害の大きな地域に集中的に食糧等を供給できるよう、約71,500人分を備蓄

## 2 学校施設整備に関する取り組み

### ① 水源の多様化

- ・上水道の耐震化（水道部局の事業）
- ・雨水貯留槽設置（下水道部局の事業）
- ・飲料水・雑用水の2系統化（プール水の利用）

### ② 災害時用仮設トイレの備蓄

- ・マンホールトイレと凝固型トイレ

### ③ 緊急連絡網

- ・災害時優先電話の設置
- ・防災行政無線を校内放送へ接続

### ④ 太陽光パネルの設置

- ・114校、2,590kw（H27年度末）

#### ■神戸市立学校園数（H28年度）

|        |          |
|--------|----------|
| 小学校    | 163校     |
| 中学校    | 81校（分校2） |
| 義務教育学校 | 1校       |
| 高等学校   | 10校      |
| 特別支援学校 | 6校（分校1）  |
| 幼稚園    | 41園      |

## 2- ① 水源の多様化

### ● 上水道の耐震化（水道局）

配水池から学校に至る水道配管が耐震化された地域にシンボルとして「いつでもじゃぐち」を設置（35校・水道局事業）



通常時は水飲み場



災害時には応急給水栓



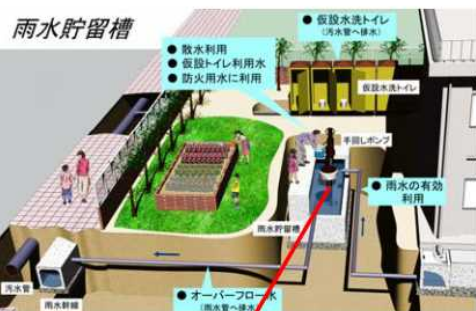
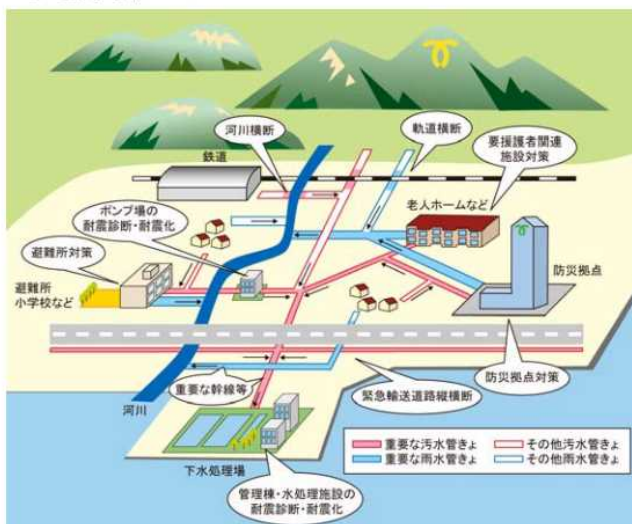
## 2- ① 水源の多様化

### ● 雨水貯留槽（建設局下水道部）

貯留槽（24校）マンホールトイレと併設

神戸アクアプラン2015 より

○地震対策のイメージ



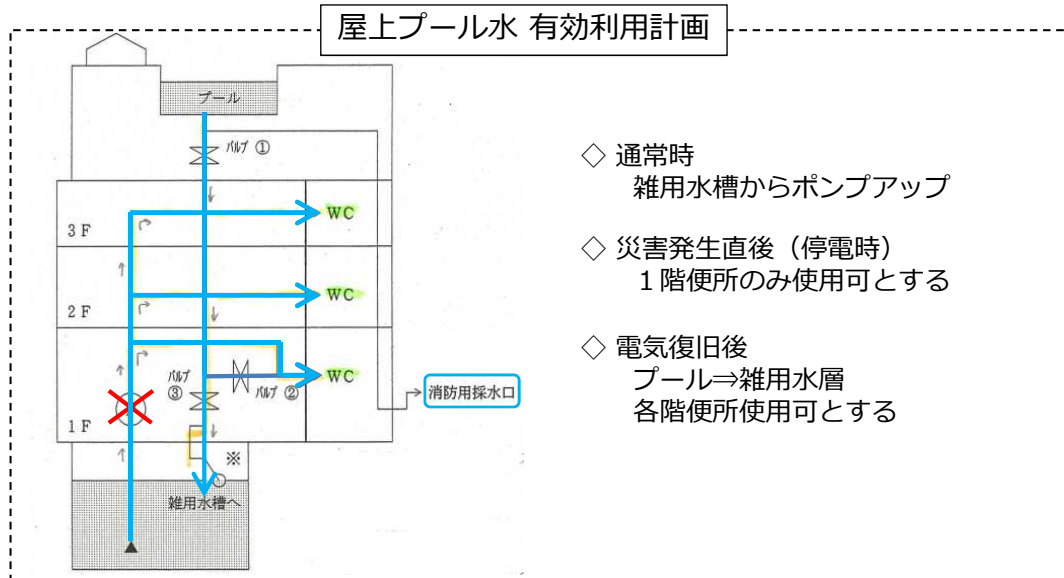
学校雨水貯留槽  
（蓮池小学校）



## 2- ① 水源の多様化

### ● 飲料水・雑用水の2系統化

併せて、井戸・雨水・河川水・プール水等の活用を図る



## 2- ② 仮設トイレの備蓄

### ● マンホールトイレと凝固型トイレ

仮設トイレとして、H26年度末で公共下水道接続型57校、凝固型84校の合計141校に設置（1校当たり5基）…建設局事業、環境局事業



マンホールトイレ



凝固型トイレ

## 3 防災教育の取り組み

### 神戸市で行っている取り組み

- 体育館や教室で段ボールを使って避難所体験をする
- 備蓄倉庫を調べ、備蓄用物資について知る
- 備蓄用食料品を活用して、料理を作る
- 簡易用トイレを設営する
- 雨水タンクにためた水で、草花を育てる
- 高学年が低学年に、学校の防災設備について伝える
- 施設図をもとに、避難経路を考え、避難する

### 事例紹介

- H27 サマーナイトスクール



## 「H27 サマーナイトスクール」

神戸市立真野小学校 4年生

平成27年7月23～24日

### ねらい

避難所を作って泊まる。備蓄用食料品で料理を作る等、宿泊体験を通して、普段はできない実感的な防災学習に取り組む。



### 実際のプログラム

- 避難所作り  
段ボールで生活する場所を作る  
荷物の置き場所や着替える場所等に疑問をもち、自分たちで考える。
- 簡易トイレの作成  
下水道直結の簡易トイレの仕組みを理解する
- アルファ化米を使ってのカレー作り  
備蓄倉庫に何がどのように保管されているのか調べた後、備蓄食料品を使って親子で料理をする。



# 「H27 サマーナイトスクール」

## こどもたちの感想より

- 段ボールで家を作って、段ボール生活がこんなにも大変だとは思いませんでした。段ボールが1枚だと少し痛かったけど、2枚敷くと柔らかくなってよかった。災害が起こった時、サマーナイトスクールを思い出してみんなに教えていきたいです。
- 災害トイレは、ふたのところ为空いていて空気が通るように工夫していることに驚きました。地震があった時は、ぼくたちしか組み立て方を知らないなので、地域の人と協力して作りたいです。
- 私は、おかまでしかご飯を作ったことがないから、袋に入ったままご飯が作れるということが初めて知れて勉強になりました。地震の時、命を大切にしたいなと思いました。
- 戒湯は今でもまきでお風呂を焚いていると知ってすごいと思いました。あと、みんなが蚊にかまれないように蚊取り線香を置いてくれたり、無料でシャンプーやジュースなどをくれたりしたから、戒湯の人は優しいなと思いました。
- 牛乳パックとアルミホイルとパンと具があれば温かいものが食べられると知っておどろきました。



## カギの管理について、発災直後に誰がカギを開けるのか

### 阪神・淡路大震災時の状況

#### ◇ 震災当日朝、教職員が到着した際の避難住民の状況

| 避難住民がいた場所 | 学校園数 | 比率 (%) |
|-----------|------|--------|
| 校舎内       | 53   | 22.6   |
| 運動場       | 68   | 29.1   |
| 周辺道路・公園   | 44   | 18.8   |
| その他       | 69   | 29.5   |

#### ◇ 教職員到着前に避難住民が校舎内に入った状況

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 学校施設開放監理者（市民）がカギを開けた    | 25校園 |
| 災害に備え近くの住民に鍵を預け、その人が開けた | 3校   |
| ドア、ガラスを壊して入った           | 18校園 |
| その他                     | 7校   |

